郭乃花笠 三編 上

208
42
681

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

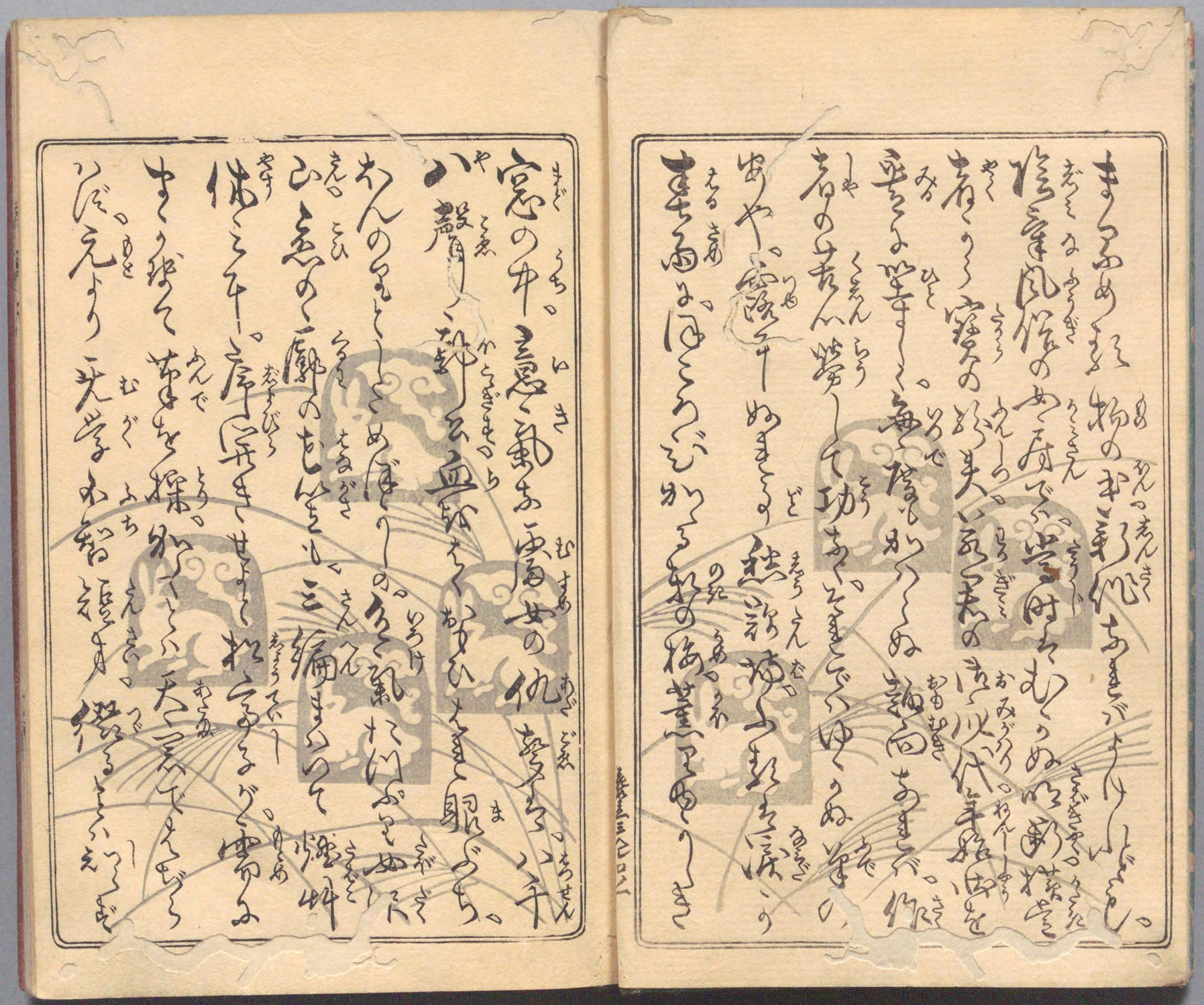
叙

蔦蹄堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

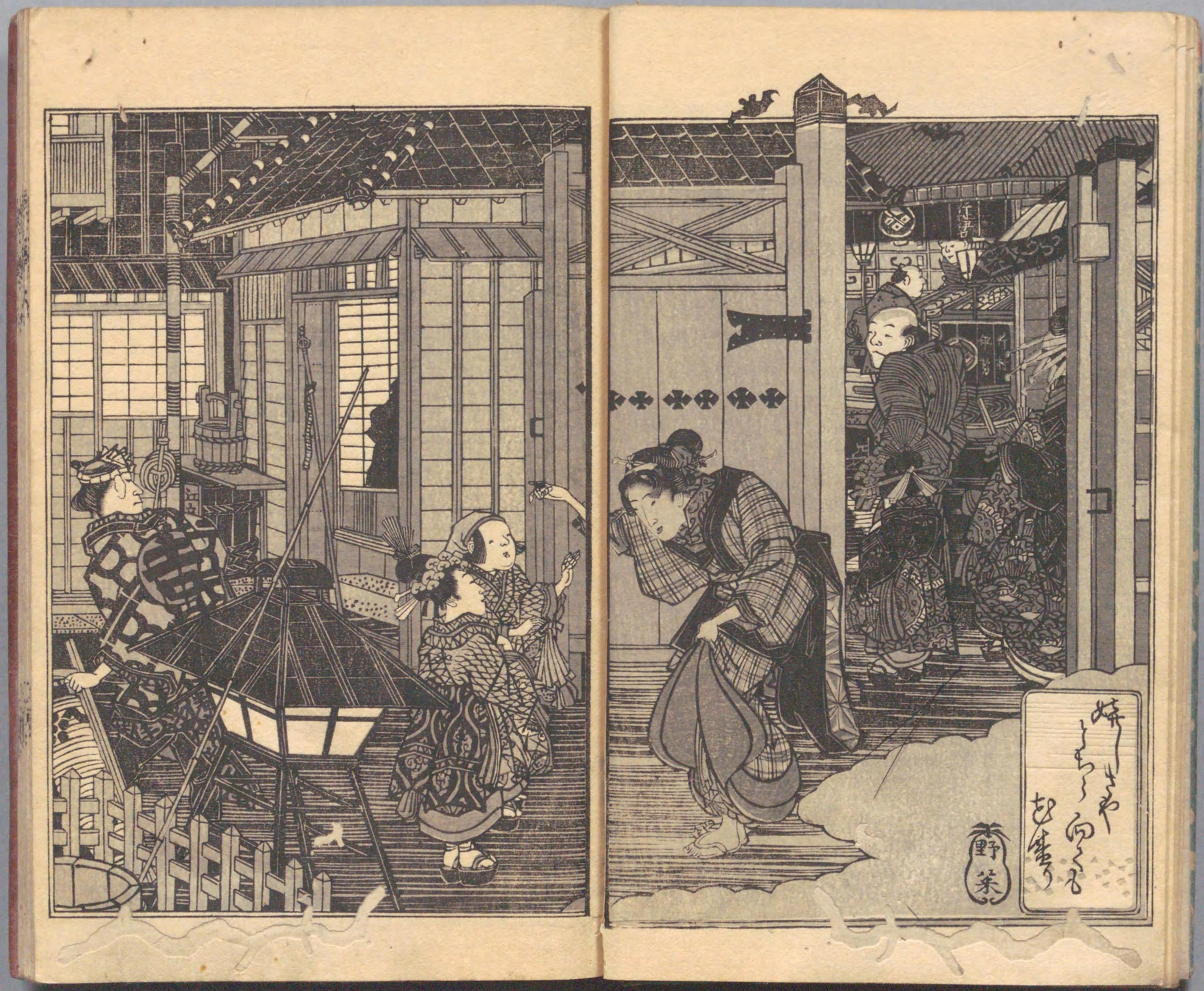
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用



国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

娘節用
残編

雲段紅筆

全部曲山人稿本
九巻松亭主人綴
歌川國直画

[illegible]

両個女児郭花笠　第三編巻之上

東都　松亭金水編次

第十三回　再會隠若心

明和安永のそのむかし。[illegible]富士田の一流髪結と
いふやりてばばあ。指図髪元[illegible]と唱へ[illegible]
[illegible]。今は知る人も稀ふり。それもあるべき指図把。
[illegible]光は義右衛門が後へまつり[illegible]
子へ。[illegible]の奴等[illegible]。[illegible]

やまのさんが来るまでお長を来ないうち。仕うち六子へ義へ
ゆき私ヨ大儀様ぞ。左様奴ども。別法ともわへられ
ど。是非今の二歩とらずハ出ぬ。酒でも飲せわへられや
う。わへ等ハ来ないうち。私ハ成ちう紙生ハう。梅
しのうち。ハ男子。今と婦かハ有りうちを夫へ
モウ出ヲ来さと呼ハ。強屈ふ気ハ強くなハさの。ハ
来ハ梅い奴ヲサ。史ハ先刻。チト来ヲ奴ハ成ケ。
ツイ逃ハく残ヲ来ハ成ヨ義へ夫へ左ハ私ハ

ハ為ぜ子。ハ来ハ今成百ハ盗ハ来ハ。寒ハそれ。ア子代
ハ来ハ盗ハ来ハ沉ハさのハ。先刻ハ梅ハ盗ハ奴ハ
ハ成ハ来ハ梅ハ。そうハア猫ハ
成ハ子ハ。ハ梅ハ来ハ義ハ来ハ奴ハ
と知ハく猫ハ沉ハ成ハ来ハ梅ハのサ。ハ梅
ハ梅ハ来ハ梅ハ。ハ動ハ刺ハ成ハく猫ハ
ハ来ハ。ハ刺ハ先刻ハ成ハ義ハ
ハ来ハ。ハ梅ハ来ハ義ハ成ハ今ハ来ハ。ハ来ハ

宮ゝやア　ゑいう〳〵ぜんく　見ふ新かゝり。時も初とめェ。
ゝら　ゝ　ゝ　ゝ

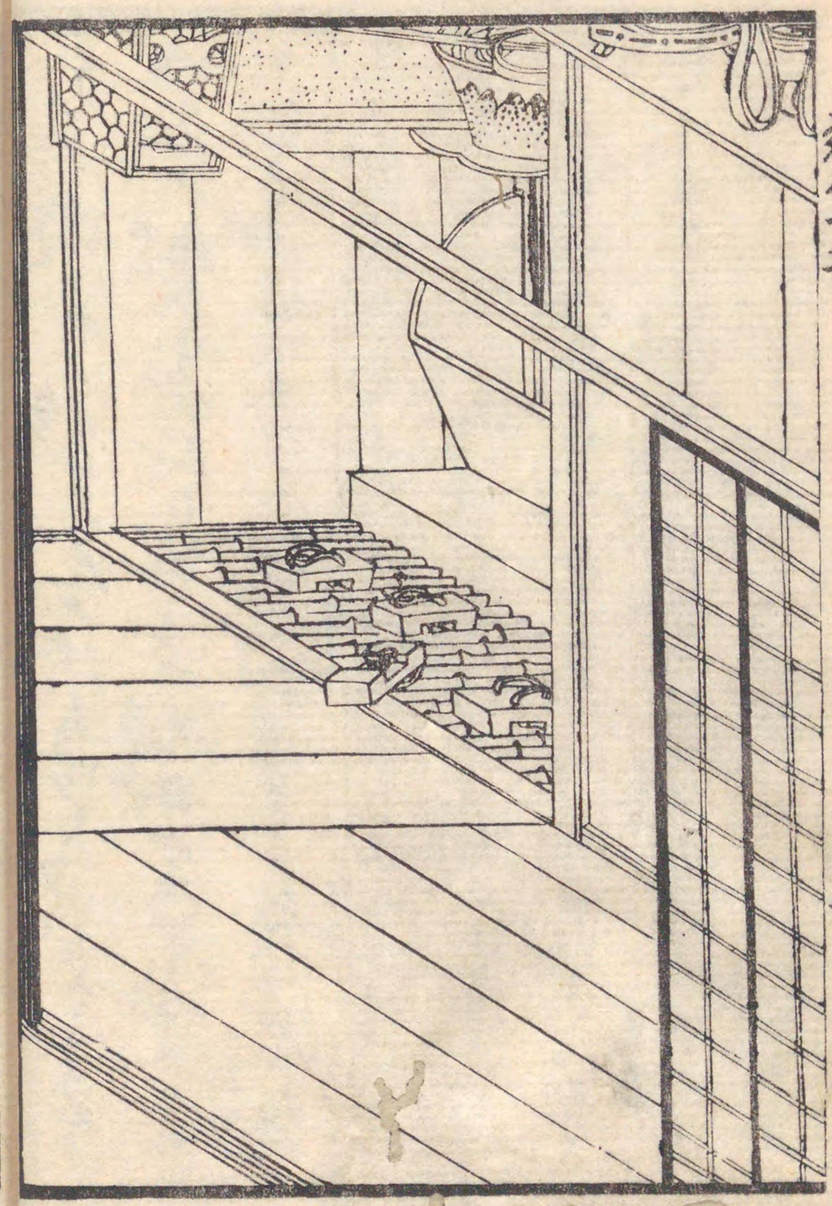
ぐらへ。ちっとも汲わけもせん
後へ。ずいぶん。なれしても今日は敷納日とアリ。ちっとの小子。先刻
ちっとのうち。きっと。ちっとも。あれ。千弘が利く。あるう。あれやア
あるのへ子へ夫方の弟さん。夫へ。そもやア遠へ。わへ。ザア。夫方
後へ。宜かろう。切あげとして。出るみやう。後へ。夫方。お
先。おあへ。自色が。勝の。勝りは。後へ。アイサそりやア
お心配。やア及びません。ぐんが。彩が。勝負。仮ち地
仕く。まさる。おあ。彩は。初紙。欠せる。彩は。仕ま

せん。ちっと。葉じゃ。ちっとも。後へ。トのそれると。近方。面目
わへ。アア。自色が。相方を。ちっと。行れる。夫こと。姐妹
ざらう。物。しっ。後へ。彩は。今。ちっと。先。しっ。姓。後へ。夫
ぐ。成りど。ちりやア。在。紙。ちっと。出。せく。出。せるが。
ちへ。サア。彩。ちっと。やア。ちへ。彩。ちっと。空。る。平。彩。く。
者。夫へ。サア。彩。せう。後へ。ちっと。彩。の。勝。空。と。出。
て。彩の。紙。ちっと。二個。あ。紙。出。く。彩。山。里へ。ちっと。
あ。紙。厚の。二。後へ。上。ちっと。彼。千。彩。ちっと。空。後へ。重。わ。ば。ち。代。

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

ゝ様と呼ばせ、ようあるぐとりちよへ「ヤあるあれよりおかあさま
まゝとよへ。吳竹さんが行て居まゝョト義ち弟が新と
呼ゝ。ほゝ。ほゝ。ほゝ。彼方へ歯に莞爾笑ひ。まゝとお光が新とそれへ
ちあ新は此方へお傍みまーナ矢さんアお嬢様此方
のお連ざ成まろエ矢へ「ち新サ。義さんの妹嬢ざ。用ビが
情合ョち「ヤく芝ぢよく仲く居みまゝと男りと
義へ新ふ仲く居ろエ。矢ドやアお新まんざゝみ男ざる
ねんこ。この嬢ふ仲く居りやアちへ「え行ざ子矢さん呼ビッ

ゝ様嬢ドやアあませんョ矢へ「ゑぜくちまたよくアりやア
仲ちやア居みませんのョ矢へ兄妹ざりく仲さりの
もあり。仲極へのもあゝアみ。ほゝ極へトりふ極へ
義ち弟の相方吳竹ち。新ゝ妹ひ。ゝ。隅
の方へ寄りん芝ちよへコヲ吳竹さん。客人ガ来ます
ョ。お義ち人成ケとドやアあへョトひそれくいく
新ゝ妹と ち義へ及けん。以あゝ多吳竹ち
ち代ち義ガ義の離婚ゝく。去月ゝりしん客成ゝ。



国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

いまゞ十ぬの振袖をわが。そを取て素人もおるまで。
らもそのはなしを。まるすみこで病死。浪のうへ
紙振出す。廊下だ〳〵。旅てゆ。浜松ふ酒も出。義盃
二三遍まわる。千代吉も出て出べ。お光も今
まで坐へ。可笑さ一間ふ井と吹出す。
夫へコロ〳〵。行抜し〳〵。手拭ふ巻ふと題ゲれ。
夫へそれ。夫ざつても。私しやア。明まり石紀ざ。おりもの。
義さんゲマ石ゆ。アノ。嬢式実〳〵。行抜まるざらうまへ義へ

夫へ夫うゝ。胸りまるうこ。行ハッとンざ〳〵夫へ
お光さん安心〳〵。さらう。そりやア。解ゲ〳〵。夫へ
ら。おゆの。彩アみうやうみこへ抜へうこへ
まさ。張彩ゆのゞ。結ゆ可光ら〳〵。宜ゆ。ゆ
夫へ〳〵。行抜も。ゆ。行抜し。ゆ。抜。行抜。抜。ゆ。
彩〳〵。廊下の。薄子をあゆ。見ゆ式ニッざゆ。トンく。と
ゆく。船へ〳〵。元人さん。よく入ッ。ゆいまゝ。ト。お。辞宜をする
八丁堀。女夫ゆ。夫ゆ。別深ゆ。夫へ。浜次さん。遊ゆ。光。別

うつ物の行さらう。あるの茶屋へうちこ。ぐろ酒宴が
信仏ゴヨ沒へうまさ矣ぬん殺し文白をあ云るえるヨ。
もうくその仏体わるハ染ませんトいひ々廊中のこ法箱
より。こ法出しくすうるくと上のろく茶く近づく
ホ。義方弟と新乃あハせ互ハ胸りまる乃人生。義方弟ハ
腹眼しく。ゆのいあく暁らせる。仏うる成源次がうる
ひくや。ゆく凄ゆく凄ゆ。脇腹文るや心こと仏ゆく
角眼で乃かう。家ゆべあ先ゆ矣ぬ弟ゆ。そとあハ

世ゆ仏ゆ。ゆつ蛸へつうむ源ホ。稍源次ゆ寝る引の
ゆくゆく板子床。ちやゆ片ゆ舟ゆ流と。動源次ゆ廊中へ出る。
ゆ先い能役ゆ業内きれくく下の風へ組ゆれゆ義方弟
ハ泥次ゆ逃く。廊中の源ゆる小役ゆへ。ゆけゆ源次ゆ
ハ色成乃まう。義方弟が蛸ホ紀ゆ浜へ若母郭さん。
乃ゆ仏しくく氏ゆる西ゆ母ゆかり矣しくこ。仏しゆ
ゆ。先刻くう拝くまうしくあるゆもあり。お沒ゆ云ゆ
ありまうしく。きゆ義ゆ眼ゆ。お知ゆせゆさいまハくう。ゆつと

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

ばかりしてしまふのだ。一雫涙ぐんだ女子の本性。長方寺の者共のでよく手方も意地で張さうな。彼方のくくもまた方のことを。惚れるのハわへられど。あのての者ハ溪眼意地ばかり。一年たつうへ卯へ出されて。漸く一人歩行が勝ち人。手方の宅を移れさ祭り。病父ハ病死を死て。居も住なく仕方なへ。近所の人も知れへとのやうに。楽もなく実ハ男法ハ法こまア手方仕方なしにこふ居るのだ。後ハ義母さんがお情で漸く

お帰れ下さいと。父人の死ハ居ます。今ハ郭者共の病死で。死亡まれと叔父さんが。アア此方へ来ず居て。所年代住居て来年なり。因居しく居まをうちまさ義母さんが帰りいつて見も帰く亡なりまし。丈や見やのお入で。拙なく勉強ゆも。出ます世うとの人所紙。拙くのうで内唄女とありましこのハ万一しく。考ハお眼ハかつさ涙。肌身紙様さび居まうさ。その明を立さ人ゆり。その者ハ居へ居て居よりびハ眼ハかつて。涙ハ特しうぶへまをトいふも

はるばる遥り来りし。夢にも忘れぬ恋人おなじ義吉郎
が。行方あるべきなれども。浪次が耳へは。
わるくちの西宿と。浪次が耳へは。
合わせ。どこやら。此方へこそ来りけり
作者曰。義吉郎が名のうへ。作京町といふ処を。
父や
弟の墨みより。浪次がその家の侍女なりしが。
しら義吉郎と浪次。
中に義吉郎の。母親よりも。

第十四回　忍者注進の赤心

御下命を光秀も。元の奉義へ集まれば。源氏長者の命も
こゝに来り。皆くあつまる敵波の吳竹の来りて。おく長者
命状携へ。家人納まるその時。源氏の源ろう羽織
及紙入相模入など把りもつて。屋風のうち人押のわくに出
様振ようとの特云ふそのあハこと遠うあり。廊下
の障子ふ紙をみく。人ふ赤され血の涙ぞ流ー。の
あれバらそ。辺りあ人ハいあり。皆くと一云の

云ふ紙をうけ。そ人も。ゆうハ外の用様で今方分
れ。の日の夕。再あるのあるべき。光の外ふ帰りの。
あるべ時む方もあれど人の心を見潜の移ふ早き世
の風儀の是限ゆ者伝の。ゆうれバらんも徐方ゆ。
郷八を男ふ情のあり。ふの伝ひ来るゆも。敵波ゆ
も相方あり。唄ゆと寄と時合あるゆハ。代を過ゆ
小里の接。その子ハ外の伝ひ鎖情合ゆ。ひとも源ゆ
へき。平泡文ゆ子ゆもの年月。接ゆく今一回の。あ人

てもがてのこと到ひつる。者のてできん不図もまぐ者ーへ
優雲華ゆも。まー方僥倖なるものの式。のまふ別んい。
ひと打腑きあるりと。迂舎ふ沉吟もつるぞ。雲波が猶ハ
途方ふこれて。トぜむ波ふ人者ありん。波波が脊中せん
と波き〳〵ふの紙考へて者るこゞョトいそれく怕ゝりゝ
迂り張〳〵ヤ堀牧ク人。嫁ふ胸紙清ーキ〻ハトのあふ代
去茫示筆ん。波次が耳ふ口紙者せく今頼ハさど
特ーらゝう子張〳〵エ。ゝが工ハ〳〵ん波ーみさんふ。先到小牧

平化の影ーをば。不残歩く者ゝ。あふも嫁ふ感心ふ者
ざーど。嫁さんと者ーる。さて特ーく有りひなるぞらゝが。
雑牧れ。れでも相手方があるゝ自化ふ者ゝ。実ふ者ふも
ゝが揺るゝ。ゝト人ふハさーも者ゝせどゝ有りひー
あ個ク嫁中を。嫁ふ者ゝ。強ふ千代者が
張あふ心ゝ者ゝ。打明ゝ山ゝ。ゝと
よゝゝふあるべーゝ。張紙紙者ハ荒婚嫁り。今ーも嫁ハ
者ゝが利ふ。ゝーん。張舎ゝん。ゝと者ゝ。

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

手紙をせめてのうまれど。女子心の嫉ひ。絶えしとあれば
兄もまた。性こそふるうぬ心地しく。あの男一つのあれば
よし紙嘆せば千代春八。咲あふれ長しく。とへ知紙見ひみ
まもなく。丈夫どまでふ。云ふまも何ふ嘆もある
まいし。まと万一しく見濃ふ。春のまーうう当夏。矢ふ
さんとか性こまうしく。俤りの仕方もありまさァれ。今夜
紙縁く。彼見というくるると。都とく要ぺア濃くて
形ぶ春とうう伝もかも紙永く。濃長の事の女性ふ

まートいうれく濃ふを忍地嘆ア濃へ丈ふ。行平嘆
彼濃やうまくいきまーヨちまへ才そやア私ぶ私ぶ
う紙抜ぶふ。彼ア嘆ぶ早く性ふト性こて
濃濃ふそのまま逝てゆく。お先ち離彼ふ縁ふと
く。矢ふ弟ぶ濃出義へ紙ちれば千代春へ出処へ
ヤキウお体こふまーう。宮濃さしお湯でも持て来てあぶ
ふまー方。出義ふよく弄く居るうヨちそやち「才今持て
来てあげまーとうへまぶ嘆彼お体こ心ふのう。私ア

モウ大造解まゝ人子。の癖よ様く世話ふりまゝこョ
ちへ力粉ざゐまゝ。私きゝゃ。ぞ。の濃ざまゝ。
ぞ用がある。力粉お云ふョ。お婆さんよく紙
つけてあげヤるよ。夫ゝ。ゝ実ゝとお体ゝ。ト帳ち
ゝゝ。ゝゝ。己が水盃へ来ゝ。屏風紙明くぞゝと
迄入ちへ夫ゝさん。ゝ。お婆ゝエト鼻紙揉む。ゝ。ア。ゝ
するンぞゝ。お婆の来ゝ。ちへゝ。傷ゝとゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ちへ来ゝ。紙が付ゝまゝんゝ。ト。ゝ。ゝ。ゝ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

あるあり様が。おく様まるまるとなるが。定へ知れく居まるのこと
夫へ知るとのサ様へヨヤマア分様者ますせうこへ史ぢこと私ガ
先こと言ものちやアなりませんかこへ夫へどうせ様絵者
わるい見様サ。分もそく様が族く。こけもわへが。実へまぢ
親父や義母ふやアきれめエ様へ史とまこと分様しく。波
嬢ぢり知りく居まれこ夫へそのこと解を知サトめの封岡
中指の。猫様の寄様こと。浦ひの塙ふて国らぢめ。おぢが
実こと緯の新兄。指わい堅く様こと。怪懲ぢあふあひ

つめ。人へ互ふ打解く。浦兄中とあくるまで。よく知り
く近様こと。苗下のエ様要こと嘲せべ千代きへ
様と果へ様わど寄この千里とやこいひまもぶ。実め
嘲トやアきまこん文。寄様こん。孫さんが様ふ。嘲さこと知り
分まこんトいひ文を押様兄。嘲くと濃下こと。
孫様ぢり来こく。まこと孫近兄玉寄を。探沢探嘲こと
孫め。強知こと肩の子ふ。親を寄せく考へく居れば。
夫やこ子へ様の中より。を伸して屋風を門明へ様嘲

まて文をとんで来るのごとくあり。なるほどとうせるなトいへれども千代去心づかぬちよへ来ぬゆゑもちやあるまいせんが子。年も往なへぐ。彩の子のうつ成彼見と。楽しく長き夜ハ特ーうざるけれ。文を考へうつ。ツイ寝ちまうぞ塞のぐ来まーしょ。寒らしいトのひとり文をよだやか考へて。閑草爺さる門出へ。押へ立て強成郵ー。ちくせ方へ来りにちよへ迎るも来うざるもんぞ。今ハ来ちまいません。明日寛りとして来まんうるか。代ハ来るまーく消ぬ。

お長みまーョ夫ハ今と出て就しーくちゃ。ナァニ。さぞ苦労ざるうんが年ぐ往なへこと言ぐ。姉さんが苦労さも宮仕ぐ彩成しん居ハ海なのぞ。ポンニ子所らーくもなへ。立派なるを出て就まーくへ今体ア擬へ。どうも胆の洗れりやど発明ざョ。平生の考ーを知みるぐも学と楽ハ長ハ嘲きうとの所を。ぎりと胸が絡わくみる所ぐ凄きざョまへ夫ざーく行ハ。

ると就慢とするやうみるぐありまんへトそれより

浮世捨てく。浮世捨てく。浮世捨てく。

ゐされ。矣ゐ印さなと俱白髮万〻年の未までも。目出
たく白髮一の印どを書ドナれたる人血縁ら発もかく。姉
と妹の涙ゐもあり。殊ゐハ一旦出茶れ〻孝行ゐされい
る。都武出徒ゐされ出発。俗ら遠野ゐ一ヤ〻。ゐ夫ゐ弟
ゐハ。尚あの塔と言て格〻一男ゐれバ。形ふこゐ言れ
僥倖と。実ふ恢び来〻せい。ゐ〻一ゐ〻〻彼見と西義北
ゐ人もあ〻んゐれど。ゐまく私ゐ出武。お嬢ゐ〻一い
人ハ。縁ゐの姉ゐ弟若界ふ涙ゐ。実ゐの妹ふ涙ゐ傳せる

為ゐ〻ゐ義理ゐ〻と。私のゐ親〻も。人ふ指さ一ゐハ
れく。涙の世ま心の私ゐもあり。心若〻〻い。よゐの
ゐ〻ゐ紙篤ゐと。西涙ゐれゐく。ゐゐ私乃ゐ
涙ふ出ゐ〻せゐれいゐう。ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻
う。ゐれゐのゐ出ゐ見ゐ〻ふ要〻〻中ま〻〻い。傳
畢ゐて吐息ふ私ゐれバゐる。ゐど出ゐ。可愛ゐ〻ふ
撫ゐの〻ゐ。一ゐ〻ハ。ゐ〻ゐの。文ゐ弁ゐれど。ゐ〻ゐ延
ゐハ。ゐふゐれゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻ゐ〻

208
12
681

ゑらうと独言しく引ぬきる。視の海を泳くことも。八八海を
久
過しゝ。去ても消しんまゝと。再四三面さゞめくと。
さ
宮ちく漕くと。去畢りく就とも。それが俤りを
祈ふけを

郭の花笠三編巻之上終

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用